



2012.7 vol.18

SEASON



ISSN 1349-3760

法科大学院図書室 島田館長 『思い出に残るこの一冊を』 … 2

特集 池田文庫十五周年記念展示会 … 4

連載 第2回 (全4回)

CTEL 山崎めぐみ准教授 『探し物を見つける場所』 … 6

図書館からのお知らせ … 8



『思い出に残る この一冊を』

島田新一郎

(しまだ しんいちろう)

法科大学院図書室館長

法科大学院研究科長補佐

経歴

1977年	創価大学法学部法律学科入学（7期）
1981年	同卒業
1989年	司法試験合格
1990年	最高裁判所司法研修所入所
1992年	同所修了・弁護士登録（東京弁護士会）
1998年	上智大学大学院法学研究科博士前期課程入学
2000年	同課程修了（法学修士）
2004年	創価大学法科大学院教授

私が創価大学法学部に入学した昭和52年当時、中央図書館は無く、多くの学生は文系A棟にあつた小さな図書室で勉強をしていました。当時の民法の教科書の定番は、岩波書店刊行の我妻栄著「民法講義」シリーズです。私も、大学1年生のとき「新訂民法総則（民法講義I）」を購入して読み始めたことを今でも覚えています。

もつとも高校を卒業したばかりの大学1年生の知識と経験では、日本語の字面を追うことはできても、内容は全く理解できませんでした。我妻先生の民法講義シリーズは、おそらく現在でも民法では最高峰の概説書の一つですから理解できなくとも当然なのですが、当時はとても苦しかったことを思い出します。それでも、芸術的ともいえる舟橋淳一先生の民法の講義を聞きながら、5回位読み直した頃に、ようやく内容が理解できました。

私の学生時代から「良本をたくさん読みなさい」と言い続けられています。しかし、良本といつても、何が良本かはよくわかりませんので、ひとまず「古典的名著を読みなさい」と言わかれたりします。しかし、若いときは古典的名著を読んでもそので、古典的名著を読んでもそ

の内容の奥深さが理解できず、面白くないのが普通です。そこで皆さんへのお勧めは「たくさん読む」ということです。とにかく、たくさん読んで、自分自身のなかに、良本かどうかの判断基準を少しづつ作り上げていくことが大事です。

一人の人間が、一生の間に経験できることには限りがあります。

そのため、人間は読書を通じて他人の経験や思考を学び、自らの社会的な経験値を高めていきます。社会的経験値が高まれば、自分の人生において様々に直面する社会的事象の捉え方が、より多角的・多面的になり、物事の理解にバランスがとれ、洞察にも深みができます。そして、この社会的経験値が上がるところが、前述した「読解力」の向上に直結するわけです。つまり、書かれている内容を、より正しく理解することができるようになるわけです。

特に社会的な紛争をいかに公平に解決するかが主題となる法曹にとつては、この社会的経験値を高めることは非常に重要です。物事を公平に解決するためには、物事を多面的・多角的に理解していること、物事の捉え方に偏りがなくバランスが取れていることが不可欠だからです。

したがって、学生時代にはたくさんの本を読むことを、ぜひ習慣化して欲しいと思います。皆さんは、スマートフォンや携帯電話を使うことはすでに習慣化されていると思いますが、それと同じ程度に読書を習慣化して欲しいと思います。とにかく、ここで習慣づけをしておかないと、将来、本を読むことは益々減少して、社会的経験値を高める絶好の機会を失ってしまうからです。

「読解力」と「文章力」とは、まつたものですが、学生の皆さんに即して言えば、「活字文化」とは「読書をする習慣そのもの」です。そして、なぜ「読書の習慣化の復興」が必要なのかといえども、学生の皆さん的社会的な経験値を高めて、人間的・社会的に大きく成長して欲しいからです。

実社会にでれば実感しますが、どんな職場であっても、ちょっとした「報告書」のひとつも書けなければ仕事になりません。過不足のない的確な内容の報告書を、限られた時間内に書き上げるスキルがあることは、社会人として不可欠な能力ではあります。人は意外に多くありません。的人は意外に多くありません。的確に問題点や課題を理解し、そのことを報告書やリサーチペーパーを書き上げる力を持つことは社会人にとって大きな武器となります。

「Soka Book Wave」運動は、創立者が提唱される「活字

面白くないのが普通です。そこで皆さんへのお勧めは「たくさん読む」ということです。とにかく、たくさん読んで、自分自身のなかに、良本かどうかの判断基準を少しづつ作り上げていくことが大事です。

一人の人間が、一生の間に経験できることには限りがあります。そのため、人間は読書を通じて他人の経験や思考を学び、自らの社会的な経験値を高めていきます。社会的経験値が高まれば、自分の人生において様々に直面する社会的事象の捉え方が、より多角的・多面的になり、物事の理解にバランスがとれ、洞察にも深みができます。そして、この社会的経験値が上がるところが、前述した「読解力」の向上に直結するわけです。つまり、書かれている内容を、より正しく理解することができるようになるわけです。

特に社会的な紛争をいかに公平に解決するかが主題となる法曹にとつては、この社会的経験値を高めることは非常に重要です。物事を公平に解決するためには、物事を多面的・多角的に理解していること、物事の捉え方に偏りがなくバランスが取れていることが不可欠だからです。

したがって、学生時代にはたくさんの本を読むことを、ぜひ習慣化して欲しいと思います。皆さんは、スマートフォンや携帯電話を使うことはすでに習慣化されていると思いますが、それと同じ程度に読書を習慣化して欲しいと思います。とにかく、ここで習慣づけをしておかないと、将来、本を読むことは益々減少して、社会的経験値を高める絶好の機会を失ってしまうからです。

「読解力」と「文章力」とは、まつたものですが、学生の皆さんに即して言えば、「活字文化」とは「読書をする習慣そのもの」です。そして、なぜ「読書の習慣化の復興」が必要なのかといえども、学生の皆さん的社会的な経験値を高めて、人間的・社会的に大きく成長して欲しいからです。

実社会にでれば実感しますが、どんな職場であっても、ちょっとした「報告書」のひとつも書けなければ仕事になります。過不足のない的確な内容の報告書を、限られた時間内に書き上げるスキルがあることは、社会人として不可欠な能力ではあります。人は意外に多くいません。的確に問題点や課題を理解し、そのことを報告書やリサーチペーパーを書き上げる力を持つことは社会人にとって大きな武器となります。

特集

池田文庫十五周年記念展示会

創価大学中央図書館に設置されている「池田文庫」が、本年5月8日で開設十五周年を迎え、5月3日から約1ヶ月間、「池田文庫十五周年記念展示会」を開催いたしました。

池田文庫は、創立者から創価大学に寄贈された約7万冊の蔵書で構成されており、哲学、政治、経済、法律、科学、文学など幅広い分野の図書があります。

この度の展示会では、創立者が師事した戸田城聖先生のもとで学んだ際、使用された教科書や創立者の直筆揮毫のある図書をはじめ、貴重な図書を展示了しました。また、創立者の若き日の読書や世界の知性との対話にも触れ、創立者の幅広い見識をご紹介しました。

来場した方からは、「創立者の若き日のからの勉学求道の姿に感動しました」、「創立者が本を愛され、本当に沢山の本を読まれたことを改めて痛感しました。自分ももっと勉強しようと思いました」など、感動の声が多数寄せられました。



来場者の声

陶と読書によつて築かれたのだと深く感銘を受けました。(30代 女性)

池田先生の若き日からの勉学求道の姿に感動しました。創大で教員免許を取得し、教師として現場にいますが、更に勉強していくことを決意しました。(40代 男性)

素晴らしい展示、感動しました。創立者の思想をさらに広めゆく決意と原点の日になりました。(40代 女性)

高3の息子ときました。師弟のすばらしさを改めて感じました。受検合格を願いながら展示を見させていただきました。(40代 女性)

素晴らしい展示、感動しました。創立者の思想をさらに広めゆく決意と原点の日になりました。(40代 男性)

高3の息子ときました。師弟のすばらしさを改めて感じました。受検合格を願いながら展示を見させていただきました。(40代 女性)

高3の息子ときました。師弟のすばらしさを改めて感じました。受検合格を願いながら展示を見させていただきました。(40代 男性)

素晴らしい展示、ありがとうございました。今日よりは、読書をこころがけていきます。(50代 女性)

高3の息子ときました。師弟のすばらしさを改めて感じました。受検合格を願いながら展示を見させていただきました。(40代 女性)

素晴らしい展示、ありがとうございました。今日よりは、読書をこころがけていきます。(50代 女性)

高3の息子ときました。師弟のすばらしさを改めて感じました。受検合格を願いながら展示を見させていただきました。(40代 女性)

素晴らしい展示、ありがとうございました。今日よりは、読書をこころがけていきます。(50代 女性)

高3の息子ときました。師弟のすばらしさを改めて感じました。受検合格を願いながら展示を見させていただきました。(40代 男性)

高3の息子ときました。師弟のすばらしさを改めて感じました。受検合格を願いながら展示を見させていただきました。(40代 女性)

池田先生が世界各国の指導者から尊敬され友情を結ばれた土台は、若き日の戸田大学の薫

非常に興味深い展示でした。私ももっと学んでいきたいと思いました。(30代 男性)

戸田大学での教科書がとても興味深かったです。読書をしようと思いました。(20代 男性)

若き日の池田先生の熏陶を身近にふれ、自分の生き方を改めて痛感しました。自分ももっと勉強しようと思いました。(20代 女性)

池田先生が世界の指導者から尊敬され友情を結ばれた土台は、若き日の戸田大学の薫

探し物を 見つける場所

連載第2回（連載全4回）
山崎めぐみ 准教授

私は小学生の子供が2人います。2人とも、図書館に行くことが大好きです。2年以上も前の話になりますが、私が以前働いていた大学では、大学図書館と市民図書館がとなりどうでした。これ幸いと、子供の学校が休みで私がどうしても仕事に行かなければならぬ時には、私は大学図書館で、子供たちは市民図書館で過ごしていました。市民図書館では、子供の喜びそうなクッションが置いてあり、そこで寝そべりながら本をゆっくり読むことができました。私は、ノートパソコンで大学図書館の電子データベースを使いながら仕事をしていたという感じです。

今回は、子供たちがなぜ図書館が



好きなのかを紹介したいと思います。みなさんは、「好きな本」はありますか？どの本が面白いか、ウェブサイトや本屋さんで立読みをしながら探したりしませんか？それでもなかなか、「買った本がおもしろかった」「もう一回読んでみたい」と思う経験は少ないのでしょうか。

前回、書かせていただきましたが私（私の家族）は、アメリカで長い間生活をしていました。子供たちは、2年前に日本に来るまではアメリカ生まれのアメリカ育ちです。帰国して困ったことがあります。それは、子供たちは本を読むことが好きなのですが、年齢相応の「読める」本を見つけることが難しかったので

す。長女の場合は特に、「日本語で」「読めて」「好きな」本がなかなか見つかりませんでした。そこで大活躍したのが図書館です。彼女は、とりあえずいろいろな本を借りて読み始めました。シリーズになっている本が好きらしく、とりあえず第1巻を読んで好きかどうかを探りをいれていきました。あれだけ、四苦八苦して読んでいた日本語の年齢相応の本でしたが、今では18巻シリーズを楽しそうに読んでいます。娘が同じ本を何回も読みたい、という気持ちになつたらその本を買うようにしています。

一方、長男は「調べる」ことが大好きです。家にも図鑑はありますが全巻そろっているわけではありません。そこで活躍するのが図書館です。知りたいことをノートに書き出し、図書館に行き、本やコンピュータでいろいろ調べてきます。図書館のテーブルで、図鑑を見ながら絵を描いたり、説明をメモしています。それを、画用紙にまとめて、私たち

- 山崎めぐみ先生 略歴
- 1991年 玉川大学 文学部教育学科 初等教育専攻 学士号
- 1995年 ミネソタ大学 International Development Education 専攻 修士号
- 2002年 ミネソタ大学 Comparative International Development Education 専攻 博士号
- 1995年 ミネソタ大学 College of Education and Human Development アカデミックアドバイザー
- 1998年 ミネソタ大学 General College アカデミックアドバイザー、キャリアプラニング/フレッシュマンセミナー担当
- 2004年 メトロポリタン州立大学 Interdisciplinary Studies 准教授
- 2010年 創価大学 学士課程教育機構 准教授

に「発表」してくれるので。調べていくうちに、「このことについてもっと知りたい。」「この図鑑は家にほしい。」と思うようになるのだと思います。本屋さんでおねだりされるのは、図鑑がほとんどです。

好きな本を探すために本屋さんを何軒もまわったり、コンピュータで自分の知りたいことを調べるのも楽しいとは思います。でも、図書館に行くと、何軒もの本屋さんを合わせたくらいの本や、図書館司書の方に教えてもらいながら調べることができます。大学生の皆さんも、自分の好きな本を見つけたり、調べ物をしたりと図書館を大いに活用してみてください。





図書館からのお知らせ

SBW 講演会と選書ツアーを開催しました

〈SBW 特別講演会〉

7月5日に中央図書館2階ブラウジングルームにて、SBW 読書講演会を開催しました。

講師に経済学部の勘坂純市教授をお招きし、「社会科学の古典を読む～経済学部教授、読書を語る～」と題して、講演を行なっていただきました。

講演では、勘坂教授がなぜ読書（勉強）が好きになったのかを、学生時代の経験を通して読書の魅力や読み方、お薦めの図書など多岐に渡ってお話していただきました。

参加者からは、「新しい見方を知ることができ嬉しかった。新書や古典は苦手意識があったが、以前より興味が湧いた」「読書の必要性、方法、また具体的な推薦図書などを知ることができ、とても有意義な時間を過ごすことができた」などの声が寄せられました。

〈選書ツアー〉

6月23日に紀伊國屋書店 新宿南店にて選書ツアーを開催しました。

これは、創価大学中央図書館に所蔵して欲しい図書を、学生が選書するという内容で、4回目となる今回のツアーには学部生15名が参加して、中央図書館に所蔵したい図書を参加者の感性で自由に選書しました。参加した学生からは、「初めて選書ツアーに参加しましたが、楽しみながら、また自分の興味の幅を広げながら本を選ぶことができたと思います」「参加して本当に良かったと思います」などの感想が寄せられました。

選書ツアーで購入した図書は、中央図書館2階SBWコーナーに配架する予定です。

中国館開設にともなう施設利用の変更について

中国政府の対外交流活動「感知中国」一環として、中国政府から今後10年間にわたって合計3000冊の図書が寄贈されます。

それにともない、旧グループ学習室Aに中国館を設置し、旧Language Study Roomにグループ学習室Aを移設いたしました。

動画やCD・DVDを使った語学学習などはAVライブラリーもしくはLB教室でのご利用をお願いいたします。ご不便をおかけいたしますが、ご了承のほどをお願い申し上げます。

旧グループ学習室A → 中国館（準備中）
旧Language Study Room → グループ学習室A